

今月のテーマ

インフルエンザとかぜ

11月になり寒さや空気の乾燥により、体調を崩す方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

今年はインフルエンザの流行が早まっています。病気の症状やお薬について整理してみましょう。

インフルエンザとかぜってどう違うの？

のどの痛みや鼻水などの症状があると、“かぜかな”、“インフルエンザかも”と心配になりますよね。どちらも鼻から喉にかけた上気道とよばれる部位に症状があらわれます。



かぜとは？



様々なウイルスや細菌の感染によって起こる上気道の炎症のことです。普通のかぜの多くは微熱程度の発熱・のどの痛み・鼻水・くしゃみや咳などの局所症状が中心で、全身症状はあまりみられません。



インフルエンザとは？



インフルエンザウイルスの感染によって起こる病気です。38℃以上の高熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・倦怠感などの全身症状がいきなりあらわれるのが特徴です。そのあと、普通のかぜと同じような、のどの痛み・鼻水や咳などの局所症状があらわれます。子供ではまれに急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している方では肺炎を伴い重症化することがあります。

インフルエンザとかぜの違い

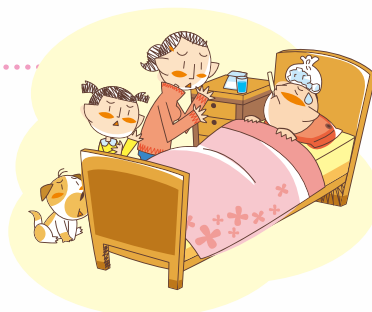
	か ぜ	インフルエンザ
発 症 時 期	1年を通して散発的	11～3月が多い
症状の現れ方	上気道の局所症状	全身症状
症状の進行	ゆるやか	急激
発 熱	通常は微熱	高熱(38℃以上)
主 な 症 状	のどの痛み・鼻水・くしゃみ・咳	頭痛・倦怠感・関節痛・筋肉痛
原 因	ライノウイルス・コロナウイルスなどのウイルスやマイコプラズマなどの細菌	インフルエンザウイルス

かぜ治療

ウイルス感染の場合は安静にし、栄養・水分補給をすることで自然に回復します。対症療法として、鼻水を減らす薬(抗アレルギー薬)・咳や痰をしずめる薬・痛みや熱をやわらげる薬などを使用します。市販のかぜ薬も有効です。細菌感染が疑われる場合は抗菌薬が処方されることもあります。

インフルエンザ治療

自宅で安静にし、休養をとることが大切です。インフルエンザの治療薬は医師の診断が必要です。症状が出てから48時間以内に服用しなければ十分な効果が得られないため、「おかしいな」と思ったら早く受診しましょう。



おもなインフルエンザ治療薬

商品名 (成分名)	リレンザ® (ザナミビル)	タミフル® (オセルタミビル)	ラピアクタ® (ペラミビル)	イナビル® (ラニナミビル)	ゾフルーザ® (バロキサビル)
投与経路	吸入	経口 (カプセル・ドライシロップ)	点滴	吸入	経口(錠剤)
投与回数	1日2回、5日間	1日2回、5日間	1回のみ	1回のみ	1回のみ

昨年、8年ぶりに新しいインフルエンザ治療薬が発売され、お薬の選択の幅が広がりました。

インフルエンザと異常行動

一時期、インフルエンザ治療薬を服用した患者さんが、マンションから飛び降りるなどの異常行動が話題になりました。

厚生労働省の調査によると、治療薬を服用していないインフルエンザ患者さんでも異常行動がみられており、原因は不明とされています。

万一の事故を防止するために、インフルエンザに感染したら治療薬の使用に関わらず、窓を施錠したりご家族が見守るなど注意しましょう。



普段から予防することが大切です。
外出時はマスクを着用し、外出後は手洗い・うがいを行いましょう。



参考文献 ◆厚生労働省ホームページ「インフルエンザQ&A」 ◆日本呼吸器学会「かぜ症候群」「インフルエンザ」

お薬や介護についてわからないことや、気がかりなことがありましたら、
お気軽にお尋ねください。

担当 みやこ薬局 薬大前店

<https://www.miyako-ph.co.jp>

みやこ薬局

本店・山科店・薬大前店・マツヤスーパー店・北山店・紫竹店・大宮店・桂店